

薩摩狂句鑑賞 172

薩摩狂句曆 三條風雲児著 から

セツトした晩な一緒に寝ろたせじ

石川 穂無

美容院に行つて、折角髪をきれいにしても、それに気づいてくれないご主人ほど、情けないものはないそうである。

セツトした髪は、できるだけそのままの状態を長く保ちたいと思うのが女心というよりは、くずされたくない奥さんが、同衾を拒んで、別に床を敷いたのである。やはり奥さんが、美容院から帰った時は、「かっこいいぞ!」とほめなくてはいけないようである。

横道な奴戻せち言たや投げつやっ

藤高 春風

「借つ時の仏顔、戻す時の鬼面」という諺があるが、人間とは勝手なもので、借りる時は頭を低くして頼んだくせに、返済の期限が切れても、何の音沙汰もないという話はよく聞く。

忘れていたのではないか、と貸した方が催促すると、「今都合が悪い」とかなんとか言つた挙句に、投げて返したというわけである。情けない世の中ではある。

薩摩郷句誌 渋柿八三六号雑吟から

前田 一天

おはようちランドセルから追抜かれつ

(唱) 子供ま風ん子舞た花吹雪

中村 木強

法律も有つて無かよな政治じなつ

(唱) パー券で骨抜きされた規制法

古川 芽々

手鏡に笑顔が写らし拭つ見つ

(唱) 我がも見させん歯痒い眼の病氣

西ノ園 ひらり

後三秒足らし襷が繋がらじ

(唱) 誠て厳しか勝負ん世界

針持 三毛猫

邪魔じないが加勢すつ言えは断れじ

(唱) 怪我をさせんかそい丈が心配

藤本 鬼瓦

何ゆ言かち言てなみたどん利かん身体

(唱) 意地じよ張つみてん歳な敵わじ

今井 夢紫

物足らん様子で床けへへん休肝日

(唱) 寝てからずいも焼酎が夢め出つ

伊地知 孝

鯉幟よか金が良かどち息子あ吐えつ

ウオーキングすれば一合じや足らん焼酎
看護師が美人でで喜くつ通よ病院

満留 ぐみ

久か振り太鼓三味線の鳴い良か花見

離島い無事赴任たちメールいほつとしつ
スキップで校庭ゆ回い一年坊

郷句募集

◎6号

題吟「雨(あめ)」

締切令和6年5月7日(火)

◎7号

題吟「六月灯(ろっがつどう)」

締切令和6年6月5日(水)

◆選者 樋口 一風

◆漢字のわからない時は、カナで書いて
ご応募くだされば選者が適宜漢字をあ
ててくださいます。

◆応募先 〒八九二一〇八四六

鹿児島市加治屋町三番一〇号

鹿児島市医師会『鹿児島市医報』編集係

TEL 〇九九―二二六―三三三七

FAX 〇九九―二二五―一六〇九九

E-mail: ihou@city.kagoshimamed.or.jp

鹿市医郷壇



532

樋口 一風 選

兼題「花見」(はなん)

天

清滝支部 鮫島爺児医

飲ん方で見事て桜をけ忘れっ

(唱) 花よか団子ち焼酎が目的

(評) 「花より団子」という諺や、「酒なくて何の己が桜かな」という江戸川柳があります。当時の江戸っ子の花見に対する考え方がよく表れています。

花見と言ったら飲んで騒いでどんちゃん騒ぎと言うのが定番だったようです。

この句も私達と同じく、桜は咲いていたのか、見るのも忘れてしまったということらしい。妻に桜はどうでしたかと聞かれて困ったことがありました。

地

紫南支部 二軒茶屋電停

葉桜いってん花見焼酎いっ

(唱) 焼酎せか有れば何言あならじ

(評) 情報不足だったのでしよう、よく調べないで花見に行ったら、殆ど葉桜に近くなっていました。

それでも焼酎好きに帰る理由は有りません。何分咲きだつて花見焼酎には変わりはありません。

原句は「焼酎一杯」とありましたが、焼酎一杯では満足出来ないだろうと思ひ「花見焼酎」にしました。中7と下5で句跨りになりました。

人

上町支部 吉野なでしこ

花見じゃち朝から励い場所探け

(唱) 新入社員に初めん役目

(評) 昔の会社の花見の場所取りは、新入の役目と決まっていたところが多数でした。今はブルーシートの広いのがあって楽ですが、以前は莫塵が多かったので苦勞していたようです。

何はともあれ、新入社員には初めての仕事で、こんな仕事をさせられるとは考えていなかったもので、社会の矛盾など感じることでしょう。でも上司は要領の良し悪しをしっかりと見ています。

五客一席

伊敷支部 谷山五郎猫

今日は此処で明日た彼方ち花見時

(唱) 花見ぬ梯子しつ春ゆ暮れつ

五客二席

清滝支部 鮫島爺児医

良か天気昼いなゴルフで夜桜観

(唱) 焼酎は晩じゃち直つ計画立てつ

五客三席

上町支部 吉野なでしこ

花見よか焼酎が楽しん飲兵衛同士

(唱) 焼酎が無かとあ花見じゃ無かち

五客四席

伊敷支部 谷山五郎猫

花見ん計画心配いになった花嵐

(唱) 天気予報が気が気じゃのして

五客五席

清滝支部 鮫島爺児医

花見にも気安す加れん年齢しけなつ

(唱) 若か者となずれ出た調子

秀逸

清滝支部 鮫島爺児医

年齢す取れば花見の良さもけ忘れつ

花見でん親子じゃ観かた相当違ごつ

伊敷支部 谷山五郎猫

飲ん前は桜を愛でつ良か花見

上町支部 吉野なでしこ

昼も良が夜桜も良ち人ん列